



古今和歌六帖標注

三



古今和歌六帖第三

水

あ 水 小 大 あ ち ち せ

う ち ち ぬ あ ち ち ち ち

あ さ う や め か ち ち ち

か ち ち ち ち ち ち ち



志保
いかま
みるえ
なまき
淡ゆ
いんげん

晴る海
あま
いんげん
なまき
きた
いんげん

あま
なまき
うら
たま
いそ
みあ

つる
毛
かひ
子守
なま
なま

あ

五十拾遺 伊勢 新撰 新朗 伊勢 万葉十一 言出而云忌山川之當都心塞耐 在

源 参議舒男

古 後撰 新撰 新朗 伊勢 万葉十一 言出而云忌山川之當都心塞耐 在

古 今戀 三 貫之

古 今戀 三 貫之

古 今戀 三 貫之

古 今戀 三 貫之

古 今戀 三 貫之

伊勢

古 今戀 三 貫之

後慮一 大伊勢集 の甲 ハ伊 泣ラカス

海 金堂下 代意 伊勢集 金伊

水 万十 續千慮 三人丸 古本 丸集

松 拾賀 泉

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

後拾遺誦 藤原実方朝臣

伊勢海之磯毛動雨因流波恐入兩

戀渡鴨

うさの女郎とみりんをさうとま字

を上下よまあやまぬるよ

万葉四

伊勢海之磯毛動雨因流波恐入兩

戀渡鴨

うさの女郎とみりんをさうとま字

を上下よまあやまぬるよ

大和

海 金堂下 代意 伊勢集 金伊

水 万十 續千慮 三人丸 古本 丸集

松 拾賀 泉

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

伊勢物語

行うけてしひ あつゝあつゝあつゝあ

このさうさうさうさうさうさうさう

万葉十一

吾妹子爾總爾可有年與爾住鴨之

浮宿之安雲無

第一已出

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

水鳥 同八 笠女郎

新撰萬葉下
白妙之浪道別手哉春者來留風立
每丹花裳折紫里

古今雜上
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら

契沖云鴨の影も駮をうらむ。但
鴨の影も駮をうらむ。但
鴨の影も駮をうらむ。但
鴨の影も駮をうらむ。但

古意
かむらゆりかみ
かむらゆりかみ
かむらゆりかみ
かむらゆりかみ

あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら

あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら

あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら

あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら

あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら

あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら

あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら

あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら

列子書帝篇云海之上人有好滬鳥
者蚤旦之海上從滬鳥游滬鳥之至
者百數不止其父曰吾聞滬鳥皆從
汝游汝取來吾玩之明日之海上滬
鳥舞而不下也
古今總二
かきし
かきし
かきし
かきし

白はのうてもたまむもさるる人あはほ
うらむもさるる人あはほ
うらむもさるる人あはほ
うらむもさるる人あはほ

あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら

あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら

あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら

あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら
あまてゆゑあはぢゆら

かる梅ははくすくこの頃よりなれ
 その一こや此たぐひなる
 夫木雜六 河 よそ人...
 ありてはつこの川をたぐすか
 かに...
 述異記云魚二十歳生毛壽五十歳
 謂之神龜壽一万年謂之靈龜
 華蓋集
 二...
 うひひれ...

童蒙抄卷九不漢書經不蘇トイリ
 とくこや抄す...
 丈又あうの宋丁用晦之田録云
 鑰必以魚者取其不瞑目守夜之美
 テ々
 此の鮎を物の名あり

晋書集
 海魚よる出するものありて代り...

いせ
 いか海魚のすはま魚を...
 海魚のすはま魚を...

此の下ある...
 海魚のすはま魚を...
 ふたよ
 傳未詳

おまこ...
 人...
 た...

万葉七
 鹽早三磯同荷居者入潮魚海人鳥
 屋見濕多比由久和礼乎

夫雜九... 和泉
 万土... 天雅次人丸...
 同三人... 又十五夫雜五浦...
 夫雜五島... 又九...
 あ...
 たひ

河童是...
 あ...
 あ...

新撰字鏡云龜...
 拾遺總三...
 お...
 同雜秋... 清原元輔
 月...

字...
 あ...

あつらひたのよもひ

源氏若紫巻云たのよもひをてをそ
日くたのよもひをてをそ
あつらひたのよもひをてをそ
河海よりゆめひつら買ひてをそ

あつらひたのよもひをてをそ

川

みづの大河のよもひをてをそ

万九百人宿林人集のよもひをてをそ

拾遺云云のよもひをてをそ

同三家持玉羅二

大和

忠岑

雲津 夫春六藤花家

万七 大和

伊勢集

山坂 頼基集

万葉七 吾勢子乎を許世山登人
者雖云くもしたるも契沖大和
のよもひをてをそ

拾遺戀四

つゆのよもひをてをそ
はつきちをよもひをてをそ
夫木冬二水鳥 ちんきん
ちんきん入江のよもひをてをそ
うきりけいせんものあつらひ
六帖とよもひの本よもひ

万葉十四

阿須可河泊之多雨其礼留乎之良
受思天勢奈那登布多理左宿而久
也思母

富士山記云有太泉出自腹下遂成
大河其流寒暑水旱無盈縮云云
躬恒集

あつらひたのよもひをてをそ

はのよもひをてをそ

新勅雜四 夫雜六

大和 信濃

新勅雜四 夫雜六

赤勅 夫未勅

大和 信濃

上野

大和 信濃

山坂

古原

夫雜六 山城

山城

契沖云やまの川にづくありとも
志々肥後ふありともききや万葉の
うこのつき大和めきり

古今物名 伊勢

あつたはあきまはてちつたあ
みのとるもくやあ

万九 夫雑六より一が
おのりまきんがさるるいづつ川あはくしつていふく人
夫雑六より一が
いづつ川あはくしつていふく人
未勘

万七 夫雑六より一が
我が妹もまらてやま川まらていふ代まらに
後三陽成院御製

荒はまのまらていふ代まらに
常陸

はらま

後春下
おのりまきんがさるるいづつ川あはくしつていふく人
常陸

おのりまきんがさるるいづつ川あはくしつていふく人
陸奥

おのりまきんがさるるいづつ川あはくしつていふく人
彼ハラカ

おのりまきんがさるるいづつ川あはくしつていふく人
大和

おのりまきんがさるるいづつ川あはくしつていふく人
山城

おのりまきんがさるるいづつ川あはくしつていふく人
いと夫

万葉十一
玉坂吾見人何首依以亦一目見

同三
島傳敏馬乃埒乎許藝回者日本戀
久鶴左波爾鳴

同一
榊永朝臣人丸
雖見詭取吉野乃河之常瀬乃絶事
無久復還見牟

を搦すもふみと川いみと川の流りあ
るべー信濃地名考更級郡の條小
御言川赤詳今燒石の西の流ありて
八幡の南は出てつしま川は入るを
信濃川とよみあつて人の流すまら
みこと川とよみあつて

新勅語より一が
陰國よあつていふあはくしつていふく人
夫全三十萬より一が
授津

同難より一が
おのりまきんがさるるいづつ川あはくしつていふく人
未勘

おのりまきんがさるるいづつ川あはくしつていふく人
波ヲカ
山城

おのりまきんがさるるいづつ川あはくしつていふく人
山城
夫雑六より一が
信濃

おのりまきんがさるるいづつ川あはくしつていふく人
ちくま夫
足下古又

おのりまきんがさるるいづつ川あはくしつていふく人
山城
夫雑六より一が
古意五 古本家

おのりまきんがさるるいづつ川あはくしつていふく人
同上
夫雑六より一が

後撰集三
さくらよふ花あたまはるかに川
下同

契沖云此は兼補家集にもあるれ
上の音羽川のつづきましまひ
兼補のうへへてうへへて定家
卿の百人一首ま新古今よれ
たりまふと振すふ此は古木家
集にもありと類後本にもま
るしや。古雷たもまけれど
契沖の祝やいふま

古本朝恒集
それ川まらまらあふかみんせ
わすれれまらまらあふかみんせ

万葉六 山部赤人
為問乃海人之塩麩衣乃奈礼名者
杳一日母君乎志而撥念

公忠集
さくらよふ花あたまはるかに川
さくらよふ花あたまはるかに川

さくらよふ花あたまはるかに川陸奥さくらよふ花あたまはるかに川
めあ川耳大和さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川
さくらよふ花あたまはるかに川紀伊さくらよふ花あたまはるかに川尾道さくらよふ花あたまはるかに川
新和撰集大和さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川
河手同和さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川
さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川
新古今兼補吉木家さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川
さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川
同五同さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川
さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川
近江同さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川
續後撰集同さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川
契沖の祝やいふま

三十七

伊勢
さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川
夫雜六大和さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川
同甲斐さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川
万七同さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川
さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川
吉木九集大和さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川
赤勘大和さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川
さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川

新後撰集大和さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川
大和川大和さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川
さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川
代意大和さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川
さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川大和さくらよふ花あたまはるかに川

紀伊
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

秋風の吹くはちたはれやまのたけのこしらへてつれづれにけり

赤劫
やがてはれやまのたけのこしらへてつれづれにけり

夫雑六
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

同人丸
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

摂津
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

加多
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

万十
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

小山田乃海田は性何也... 徳川

後雅四
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

万十人集
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

万葉七
武庫河水尾急嘉赤駒尼何久敷池
初流鴨
師翁云くさづは皆山川の度き云ふ
のよみれはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり
一種別あるものごとけり

頼政集
秋のゆきをまきうりあきとわたりし
つきむらさきあひやうすけ

同 夫春五
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

山城
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

万十
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

拾春
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

大春五
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

方十
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

大和
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

万十
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

大和
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

新勅
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

遠江
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

大和
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

玄園云雄略天皇くさきまは性
時神送天皇至又日川これくさ
のふもふある川おき市郡の地
まきとれん

清正集
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

万十
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

大和
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

新勅
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

遠江
しらけはあなはうらやまのたけのこしらへてつれづれにけり

久世那あわじ山科の石田よりわが山
書紀景行紀不意之間倭亡我子
續紀天應元年詔云安加良米佐須
加事久云

契沖云云ひうけざふらあふらふらとま
むしめささあぬるをあつめ
もせはといふふといふう他人のやうに
をありしめささといふ
大和物語云もろのさうあつめ
せてろひあひけらふ

なつこの格もつらへ此個は後
あり竹材抄後万葉論あつめ
て男さく

此らささのそを物名ふらふ
拾遺賀 伊勢

大いふむれるたづのささあつ
おもよこころのあつがあつらふ

をささののりたの格はささあつ
坂田の格とよむべきよ一代正記ふ
くはらわらふ

夫雑三ノイハ
浦のむねあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

神大
中ささあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

後雑七條后温子 伊勢集
人ささあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

古訓諸伊勢 家 金 廿
ささあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

新吉羅旅書之家
白ささあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

ささあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

以上二ノ
伊勢

夫雑二ノイハ
ささあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

同田吹黄刀自同
ささあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

同土 續後拾遺三ノ丸 古本人丸集 夫雑二ノイハ
ささあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

同土 同雜十五 色田
ささあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

古今雜上

世の雑さあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

ひらひのいささあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

河海類云詩懐云楳所引通波竇和
此らささののりたの格はささあつ
契沖云うすひはささの水此歌もろもろにのいぬせだ
おふ夫

入らあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

八雲抄抄もあつらふ六帖楳の所
和名抄河海類云唐韵云堰埭壅水
也和名井

拾遺別 深くたさ妻
もろもろにのいぬせだ
下同

万葉十一
幾多毛不零雨故吾背子之三名乃
許多龍毛動響二

後雜一伊勢 家
ささあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

万井大原櫻井久 夫雑三ノイハ
ささあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

同土 同雜十五 色田
ささあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

同土 同雜十五 色田
ささあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

夫雑六ノイハ
ささあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

夫雑六ノイハ
ささあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

夫雑六ノイハ
ささあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

夫雑六ノイハ
ささあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

夫雑六ノイハ
ささあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

夫雑六ノイハ
ささあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

夫雑六ノイハ
ささあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

夫雑六ノイハ
ささあつあまの浦のひらう格もろもろにのいぬせだ
おふ夫

拾遺戀二
かきつらうらなひのこころ
かきつらうらなひのこころ

拾遺戀二
かきつらうらなひのこころ

延喜丹膳式云山城國近江國水魚
網代各一處其水魚始九月迄十二
月三十日食之

延喜丹膳式云山城國近江國水魚
網代各一處其水魚始九月迄十二
月三十日食之

新拾遺家
河のほとり
新拾遺家

費心

新拾遺みひとせの枝のとき
とらふこのさうらうのこころ
きこひ

新拾遺みひとせの枝のとき
とらふこのさうらうのこころ
きこひ

大冬一家
新拾遺家
河のほとり

大冬一家
新拾遺家
河のほとり

新古今戀一
あまのよとくあひそとて
あまのよとくあひそとて

新古今戀一
あまのよとくあひそとて
あまのよとくあひそとて

万葉四
三熊野之浦乃濱水綿百重成心者
雖念直不相鴨

万葉四
三熊野之浦乃濱水綿百重成心者
雖念直不相鴨

に

契沖云ちひさき舟ふふふがふれ
あまのよとくあひそとて
和名抄云推古舟棚とよめ
書紀景行紀日本武尊御歌比等
葛麻比比苦耳阿利勢磨云とよ
ませほへ
伊勢物語
あまのよとくあひそとて
後拾遺雜二 中宮内侍
あまのよとくあひそとて

契沖云ちひさき舟ふふふがふれ
あまのよとくあひそとて
和名抄云推古舟棚とよめ
書紀景行紀日本武尊御歌比等
葛麻比比苦耳阿利勢磨云とよ
ませほへ
伊勢物語
あまのよとくあひそとて
後拾遺雜二 中宮内侍
あまのよとくあひそとて

河標雲
長柄存命
まめで河
新
あまのよとくあひそとて

河標雲
長柄存命
まめで河
新
あまのよとくあひそとて

後拾遺雜一 三條院御製
くまあきとてうきまよふなむらさき
さひりしむらさきの月ころめ

後撰戀二 おきく
こころあきとてうきまよふなむらさき
たしむらさきの月ころめ

万葉十六 無耳之池羊蹄恨之吾妹兒之來乍
潜者水波將酒

櫻拾遺意四 小弁
こころいひまよふの池よりきんねと
とくくくるの心なきあふらぬ
古今戀二 こころいひ
あきとてうきまよふなむらさき
さひりしむらさきの月ころめ

契沖云万葉十六勝間田の歌比左
註小新田部親王出遊十堵裡御見
勝間田之池云云
新勅撰戀二 右近大将道綱
さひりしむらさきの月ころめ

續後拾遺四うな家 日記家
こころいひまよふの池よりきんねと
とくくくるの心なきあふらぬ

心まあきとてうきまよふなむらさき
さひりしむらさきの月ころめ
あきとてうきまよふなむらさき
さひりしむらさきの月ころめ

あきとてうきまよふなむらさき
さひりしむらさきの月ころめ
いけ
あきとてうきまよふなむらさき

あきとてうきまよふなむらさき
さひりしむらさきの月ころめ
いけ
あきとてうきまよふなむらさき

あきとてうきまよふなむらさき
さひりしむらさきの月ころめ
いけ
あきとてうきまよふなむらさき

代書三十一うな家 大略
こころいひまよふの池よりきんねと
とくくくるの心なきあふらぬ
古今戀二 こころいひ
あきとてうきまよふなむらさき

あきとてうきまよふなむらさき
さひりしむらさきの月ころめ
いけ
あきとてうきまよふなむらさき

あきとてうきまよふなむらさき
さひりしむらさきの月ころめ
いけ
あきとてうきまよふなむらさき

あきとてうきまよふなむらさき
さひりしむらさきの月ころめ
いけ
あきとてうきまよふなむらさき

桃華葉葉小杉の横目の扇仕立
糸のあまりとあまびもむすび
こころいあらむすびこころい
まゝいなる

家
白
古木家
やまらて

以上八首

大雅河家
玉
山城
ふ家

くんせ

万葉十
今更雪目心方晴火之燦留奉部
常成西物乎

後雅三家
今
後

伊勢

家
あ
山

志んたの法め 傳未詳

古雅
あ
山

あ

玉雅通御家
あ
山

代雅
あ
山

實之集
あ
山

古雅
あ
山

あ
山

か
傳未詳

万六
あ
山

同
あ
山

古雅
あ
山

あ
山

万葉六
神加見欲賀藍三吉野乃瀧浦
者雖見不飽鴨

後藤 山坂
おのほのほは
おのほのほは
おのほのほは

同 藤三
おのほのほは
おのほのほは
おのほのほは

大和
おのほのほは
おのほのほは
おのほのほは

古雅上
おのほのほは
おのほのほは
おのほのほは

同 家
おのほのほは
おのほのほは
おのほのほは

同 三條
おのほのほは
おのほのほは
おのほのほは

和名抄雲雨類云唐韵云潦和名頭
美雨水也

全書より新千載も家集もあるの
ありおのほのほは
おのほのほは
おのほのほは

和名抄雲雨類云淮南子注云沫雨
神加時雨濼上沫起若覆盆也
万葉十五
波奈礼蘇雨多氏流牟漏能木宇多
我多毛比左之伎時乎須疑爾家流
香母

おのほのほは
おのほのほは
おのほのほは

おのほのほは

おのほのほは
おのほのほは
おのほのほは
おのほのほは

おのほのほは

おのほのほは

おのほのほは
おのほのほは
おのほのほは
おのほのほは

おのほのほは

うんもきりるしよ縁あるは沫雨
あふあふるまじり

後慈一家 第五重出
筑前

澤

万葉七
朝入為流海赤通女等之神通沾西
衣雖千跡不靴

万十 後春上 赤人集 家持集
筑前第六重出

由まひのちふふの十とめはぬ万
神は不七とくあひ
いまは後

ついで

吉徳二家

山城

まほろの海をるふかびらさふんたむのたかみのあは
あづれまふよふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

ふら

古徳四素性家 新撰

おろろげの海をるふかびらさふんたむのたかみのあは
そこのまほろ古家新

拾遺物名きりるまじり
ふかひらさふんたむのたかみのあは

あはれまふよふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ふら
まほろの海をるふかびらさふんたむのたかみのあは
あはれまふよふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

万十 第五重出

あはれまふよふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

同 夫雑六河 第五重出

あはれまふよふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

あはれまふよふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

せ

伊勢

とみぢぢのあはれまふよふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
川の流はあはれまふよふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

やうとち

あはれまふよふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
あはれまふよふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

はるふとち

あはれまふよふふふふふふふふふふふふふふふふふふ
あはれまふよふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

大体

古事記神代記青人草之落苦瀬而
恵徳時可助告云

宣長云瀬はういふれまむひま

せあふせなふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

九て堅まの横も用ふたてふふふ

七つふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

てあふせとふふふふふふふふふふふふふふふふふふ

万葉四 大伴郎女
千鳥鳴佐保乃河瀬之小浪止時毛
無吾戀爾

續後撰戀一 讀人不知
いせのうらみのなまのあはれをよめよ
ふらふらとくさくさくぞん

後撰三續後戀一家
いせのうらみのなまのあはれをよめよ
ふらふらとくさくさくぞん

海

續古戀一
いせのうらみのなまのあはれをよめよ
ふらふらとくさくさくぞん

是名

是則集 夫雜八發
かつき出ぬあはれ様のあはれをよめよ
ふらふらとくさくさくぞん

いせ

後雜一家
いせのうらみのなまのあはれをよめよ
ふらふらとくさくさくぞん

以上二首

貫之

後撰戀五
いせのうらみのなまのあはれをよめよ
ふらふらとくさくさくぞん

今抄
説文云海天池也以納百川者也

万三置少老 夫雜煙 又七浦
すまの浦よめよ
あはれをよめよ

入射腰

古今戀五

契沖云云

万葉十二

湖轉雨海來

伊勢物語

契沖云云

契沖云云

契沖云云

あつちの海はあつちの海

海條已出

あつちの海はあつちの海

傳未詳

新古今五

あつちの海はあつちの海

夫雜五鳴

あつちの海はあつちの海

あつちの海はあつちの海

あつちの海はあつちの海

あつちの海はあつちの海

契沖云云

契沖云云

契沖云云

契沖云云

契沖云云

契沖云云

契沖云云

契沖云云

契沖云云

契沖云云

契沖云云

契沖云云

契沖云云

あつちの海はあつちの海

あつちの海はあつちの海

あつちの海はあつちの海

あつちの海はあつちの海

あつちの海はあつちの海

あつちの海はあつちの海

あつちの海はあつちの海

あつちの海はあつちの海

あつちの海はあつちの海

あつちの海はあつちの海

あつちの海はあつちの海

あつちの海はあつちの海

あつちの海はあつちの海

あつちの海はあつちの海

あつちの海はあつちの海

らぬを續後拾はまきつてきよのちふ
まがひてのせむらう地ふの部
上田村廣徳守府將軍
下られしうのふくしつ宛あれバ
いりおなつらあ
朝野群載卷六式外神社進命御ト
證文云陸奥国海島塩籠島嶺三箇
社承保二年十二月御ト坐云

神
あまのりぬきこもつたまのほろりぬきこもつたまの
備後志保の神
伊勢集
塔の浦の神
古大歌所
同 古木伊勢集
みちのりぬきこもつたまのほろりぬきこもつたまの
伊勢集
塔の浦の神

ふ 祈

五五 大船のあひぬきこもつたまのほろりぬきこもつたまの
古歌
いりぬきこもつたまのほろりぬきこもつたまの

人ぬ

五二 ぬきこもつたまのほろりぬきこもつたまの
同土 古木伊勢集 夫雜路八
いりぬきこもつたまのほろりぬきこもつたまの

真淵云万葉高市歌一首とあり恐皇
言市人而非言市皇乎

万葉七
大華山霞蒙秋夜深而吾船將泊傳
不知文

同十九 多治真人
住吉爾伊都久祝之神言等行得毛
來等毛船波早家無
契沖云住吉神知夫利之神等皆
海國をさる神とていふは住吉の神と
ハよめらる

五七 夫雜七浦の神
海士少ぬほろりぬきこもつたまのほろりぬきこもつたまの
備後
たのりぬき

夫雜三伊家
ぬきこもつたまのほろりぬきこもつたまの
たのりぬき

万九 夫雜七湊又十
あまのりぬきこもつたまのほろりぬきこもつたまの
近江
たのりぬき

同春口藏
ぬきこもつたまのほろりぬきこもつたまの
家持集
たのりぬき

万九
ぬきこもつたまのほろりぬきこもつたまの
同土 夫雜五嶋又津又又
あまのりぬきこもつたまのほろりぬきこもつたまの
近江
たのりぬき

同 五雜二一人一舟釣條重出
ぬきこもつたまのほろりぬきこもつたまの
たのりぬき

はのまろく 傳未詳

契沖云 ふそほしとあるふそほし
下て氣よくて海上静あるて
きよきとふそほし

志多の山歌字名下集楠山拾葉等
あり豊後とあり契沖ハ二ほどあり
古事記傳卷三十五小振津へといわれ
たりとれよう

真淵云 不のくといふ詞万葉のうらふ
ひつとあり後の人のうらふこと
ある
萬本今昔物語卷廿四小野篁被流
隱岐國時讀和歌語
明石ト云所ニ行テ其夜宿テ九月許
ノ事ナリケレハ明ボノニ不夜露テ詠メ
居タルニ船ノ嶋カクニヌルヲ見テ哀ト
思ヒテ如此ナム 小ノビト下同

トゾヨミテ泣ケルコレハ管ガ返テ語
ルヲ聞テ言傳ヘタルト也
うらふとふのうらふハ五帖コトアリ

契沖云 藤州のうらふとふのうらふ

格致鏡原引世本云 古者觀落葉以
造舟
土佐日記云 ふそほしのふそほしこれ
とてふそほしのうらふ秋の本のうら
ちれよとてふそほし
李吟云 ともをよふとてふそほし鼓を
うらふとてふそほしの帆をうらふとて
よふ

躬恒集
かへうりのふそほしのうらふ 白波の
たつハさびとてふそほしのうらふ

万十一
うらふとてふそほしのうらふ
よ万
色は海はおそほしとてふそほしのうらふ
同七
あんこい万

後徳三 家 新朗
いふとてふそほしのうらふとてふそほしのうらふ
いふとてふそほしのうらふとてふそほしのうらふ

万三 古歌所 夫雜三
志多の山歌 夫雜三
志多の山歌 夫雜三

吉野原とてふそほしのうらふとてふそほしのうらふ
不のくとてふそほしのうらふとてふそほしのうらふ
播磨

夫雜三 浦とてふそほしのうらふとてふそほしのうらふ
大船はあはれとてふそほしのうらふとてふそほしのうらふ
に万

同三 満哲 拾哀傷 金玉
世の中を何よたてふそほしのうらふとてふそほしのうらふ
かまかこ万

白波のおおとてふそほしのうらふとてふそほしのうらふ
新古意五十一とてふそほしのうらふとてふそほしのうらふ
あまははれとてふそほしのうらふとてふそほしのうらふ

古秋下興凡 寛 新方 興凡集
志多の山歌 夫雜三
志多の山歌 夫雜三

土
色は海はおそほしとてふそほしのうらふとてふそほしのうらふ
かちおん 藤原發生男

古意一
志多の山歌 夫雜三
志多の山歌 夫雜三

万葉七
梶之音曾勢能為鳴海和通女魁兼
船雨舟出為等思母

拾遺別 添よたよ妻
とろんにちやぬまののちつとら
ちひしとのやあえひしと

万葉三鴨君足人が長歌よ
百磯城之大官人乃退出而遊船雨
波云云

和名抄漁釣具云蒔鮎切韵云泛子
漢無抄 釣別名也
宇

ひよもほい海士の釣舟仲とちしりあまのつらみもあまのつらみ
みたりのちりあまのつらみもあまのつらみ
万士

大雅五海人元古本集 ちりあまのつらみ
クナハハウチ ちりあまのつらみ 海士と仲しりあまのつらみ
代雅二 ちりあまのつらみ

はり

古意下りあまのつらみもあまのつらみ
ちりあまのつらみもあまのつらみ

舟跡已出 伊勢の海士もあまのつらみもあまのつらみ

風さしあまのつらみもあまのつらみ

いと列にあまのつらみもあまのつらみ

ちりあまのつらみもあまのつらみ

いり

同七古本元集 大なりあまのつらみもあまのつらみ

三々二一

同 風さしあまのつらみもあまのつらみ

ら

大雅五松 冬七海人元集 ちりあまのつらみもあまのつらみ
おひ風さしあまのつらみもあまのつらみ
家 ちりあまのつらみ

あ

新抄意下りあまのつらみもあまのつらみ

万士 伊吉のつらみもあまのつらみ

大雅十五松 ちりあまのつらみもあまのつらみ

童 ちりあまのつらみもあまのつらみ

ちりあまのつらみ

万十 赤人集 猿丸集 ちりあまのつらみもあまのつらみ

あ

敬集集戀上

おまへはたのめ...あまのつらみ
たまらぬ凡のちりあまのつらみ

鯉、意より...書記景行紀に
天皇涿宮の池に鯉をまきちりあまのつらみ
媛をまきとて...あまのつらみ
留て通下...あまのつらみ
とりて鯉と名づけ...あまのつらみ

和名抄海菜類云本朝式云莫鳴菜
茶々里曾漢語抄云神馬第二野三
赤乃里曾今抄本云赤野但神野三
義也
書紀九卷紀交通郎姬歌之曰
等虛辟陪通枳於母阿閑柳七異舍

鑑等利宇弥能波摩毛能余留等
等积弘时天皇謂衣通郎姬曰是歌
不可聆他人皇右聞必大恨故時人
號濱藤謂奈能利曾毛也云

万葉十五

中臣宅守

安我未許曾世伎夜麻許要成許已
爾安良米許已呂波伊毛爾與里爾
之母能乎

万葉十七
之大奈美能與世久流多麻毛余能
安比大母都藝底民仁許或吉欲伎
波麻備半
赤深衛門集

万三又十二

みまゝ... 伊波

伊波

拾遺上...

わさび... 新十卷...

くさ... 古雅下...

あま... 万三又五...

あま... 炭路...

あま... 伊波

伊波

あま... 後家

三ノ巻

あま... 新勅意...

あま... 同十一...

あま... 同十一...

伊波

あま... 同十一...

伊波

あま... 同十一...

あま... 同十一...

あま... 同十一...

あま... 同十一...

万葉六
時風德成双香雅海潮千浦雨王
藤野而名
小野老朝臣
起冲云八三六大海を八まの指略と
りみんばのらんあくか
あまのはのまよふあまを
てあまのまよふあま

素性集

たよりなくあきとらふゆみこきあき
きりばたのねらふゆきもわらう

古今總二

友則

あきとらふ秋のしほふはあれど
人さへあめはあひがたあふは

同雜下

このふりたま

そのうちあめあめはあひがたあふは
おもふ人さへあめはあひがたあふは

いづるらん

鐘後拾雅 興風集 夫雜十一

あきとらふ秋のしほふはあれど
人さへあめはあひがたあふは

たかす村

あきとらふ秋のしほふはあれど
人さへあめはあひがたあふは

あきとらふ

あきとらふ秋のしほふはあれど
人さへあめはあひがたあふは

あきとらふ秋のしほふはあれど
人さへあめはあひがたあふは

あきとらふ秋のしほふはあれど
人さへあめはあひがたあふは

あきとらふ秋のしほふはあれど
人さへあめはあひがたあふは

あきとらふ秋のしほふはあれど
人さへあめはあひがたあふは

此のそとふはあきとらふ秋のしほふはあれど
人さへあめはあひがたあふは

万葉十一

伊勢乃白水郎之朝魚夕菜爾潛云
鱈貝之獨念荷指夫

あきとらふ秋のしほふはあれど
人さへあめはあひがたあふは

あきとらふ秋のしほふはあれど
人さへあめはあひがたあふは

あきとらふ

あきとらふ秋のしほふはあれど
人さへあめはあひがたあふは

あきとらふ秋のしほふはあれど
人さへあめはあひがたあふは

あきとらふ

あきとらふ秋のしほふはあれど
人さへあめはあひがたあふは

うら

あきとらふ秋のしほふはあれど
人さへあめはあひがたあふは

あきとらふ秋のしほふはあれど
人さへあめはあひがたあふは

あきとらふ秋のしほふはあれど
人さへあめはあひがたあふは

久保之取蛇尾上云頭注八雲御抄
色葉和難餘材抄よの尻たのあき
とらふ秋のしほふはあれど
人さへあめはあひがたあふは

あきとらふ秋のしほふはあれど
人さへあめはあひがたあふは

拾遺五
古今律考集

古今律考集

古今律考集

拾遺五

古今律考集

古雜上家

古今律考集

古今律考集

古今律考集

古今律考集

古今律考集

古今律考集

萬九 夫雜七

古今律考集

伊勢集 代意三

古今律考集

古今律考集

古今律考集

後雜一家

古今律考集

契沖云云の備伊勢不同名あり

萬七 夫雜七

古今律考集

尾張

尾張

新選一家

古今律考集

後遺三興元 家

古今律考集

中納言

古今律考集

古今律考集

入丸集

契沖云云の備伊勢不同名あり

古今律考集

萬九 夫雜七

古今律考集

伊勢集 代意三

古今律考集

後雜一家

古今律考集

~~~~~

貝

續撰歌集 夫雜 夫雑

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

古今昔みけー 〜〜ゆゑ
~~~~~

~~~~~

出観集

~~~~~

~~~~~

万土大雑七浦

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

清正集

~~~~~

万葉九 宇合御歌
山品乃石田乃小野之母蘇原見在
哉公之山道越良牟

~~~~~

袖中抄卷十八云むろの...  
 五の甲中...  
 中...清水の出...

*Handwritten text in Kuzushiji style*

飛伝河 傳未詳

夜の...  
 ...

...  
 ...  
 事記傳卷八...

*Handwritten text in Kuzushiji style with marginal notes*

...

伊勢物語

*Handwritten text in Kuzushiji style*

...

...  
 ...  
 ...

*Handwritten text in Kuzushiji style*

...

五六  
あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき

あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき

後撰家二  
あはれなるはるのさかづき

あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき

あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき

三條右大臣定吉男

あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき

あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき

あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき

あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき

あはれなるはるのさかづき  
あはれなるはるのさかづき

筆のまさび上云橘泰云とまゆふ  
尾二名淡おととるひ 廣東新

古今序云まはるのさかづき  
りまのさかづき

まはるのさかづき  
まはるのさかづき

まはるのさかづき  
まはるのさかづき

まはるのさかづき  
まはるのさかづき

まはるのさかづき  
まはるのさかづき

まはるのさかづき  
まはるのさかづき

まはるのさかづき  
まはるのさかづき

まはるのさかづき  
まはるのさかづき

まはるのさかづき  
まはるのさかづき

まはるのさかづき  
まはるのさかづき

まはるのさかづき  
まはるのさかづき

まはるのさかづき  
まはるのさかづき

まはるのさかづき  
まはるのさかづき

まはるのさかづき  
まはるのさかづき

まはるのさかづき  
まはるのさかづき

まはるのさかづき  
まはるのさかづき

まはるのさかづき  
まはるのさかづき

まはるのさかづき  
まはるのさかづき

袖中抄卷二云々一と六女の口々

古大歌所 産

新編の源の御歌々

こゝろ

催馬樂風俗歌云多万多礼乃半加  
女乎奈加仁須惠天阿流之者毛也  
佐加奈来幾二佐加奈止判仁已由  
流木乃伊曾乃和加女加利阿二  
云

同藤上 家

五つねのうまひに...

はしめ

五つねのうまひに...

忠々

後意三つ 射恒集 新

浪

万土 新十卷二下

琴之

大波のうまひに...

万葉五  
葛井大夫  
鳥海能波奈伊麻佐可利奈理意母  
布度知加射之爾斯且奈伊麻佐可  
判奈理

万七 古本集  
伊吉のうまひに...

人々

上 同土  
あはれに...

上 同土  
たては...

貫之集  
まは...

万七  
は...

は...

あは

は...

あは

古抄 芝居康秀 新方  
あは...





石川のおぼき...  
此人名...  
と定め考...  
足人ハ父...  
大臣大紫...  
連子之男也

古秋新撰家

わま

五三石州太夫  
おま...  
大...  
第...  
出

万葉を平...  
と...  
...



